

1. 11月全国行事
  - 1) 特定自主検査強調月間 11月1日～11月30日
  - 2) ボイラーデー(鞆祭り) 11月8日
  - 3) 秋の全国火災予防運動 11月9日～11月15日
2. 安全・衛生・防災の心得 : 「作業方法の改善」を推進しよう
3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)
4. 他社 事故・災害事例から : 計量タンク内を拭き取っていて中毒
5. ヒヤリハット事例 : 工具を持ち力(チカラ)を入れた瞬間すべり、転倒しそうになりヒヤットした

## 2. 安全・衛生・防災の心得 : 「作業方法の改善」を推進しよう

～改善すべきは無限にあります～

・私たちが取りまく社会・経済環境や生産技術は、激しく変化してきており、職場の作業方法についてもこれまで工夫や改善を重ねられてきましたが、近年の急速なAI(人工知能)やIOT(モノとモノとのインターネット)の採用や進展により、より速いスピードで技術や作業方法の変革・改善が求められています。従って、作業方法の改革・改善は一刻も休むことなく進める必要があります。そしてこの作業方法の改善は、作業のムリやムラ、ムダ(ダラリ)を排除し、良い製品(サービス)がより効果的で、より安全である必要があります。

これらの作業方法の改善については、次の心構えと方法が肝要です。

- ①現状に固執しないで今までのやり方に疑問を抱いてみる。
- ②何のための改善か、目的をしっかり掴む。
- ③広い視野で危険性や有害性を予測する。
- ④周囲に迷惑がかからないかなど、他の人の立場も考える。
- ⑤ヒヤリ事故や過去の事故・災害事例を改善に活かす。
- ⑥他の人の建設的な意見を引き出すよう「根まわし」をする。
- ⑦改善の時期を失わないよう集中して行う。
- ⑧改善の効果を皆で確認・評価し、次の改善に役立てる、など。



3. 安全衛生巡視 良い事例(抜粋)

●西日本技術C(関西)

- ・有機溶剤使用実験室に新たにドラフトを導入し、作業環境を改善していた



●平塚第一工場

- ・クレーンのペンダントを緊急停止ボタン付に仕様を変更していた



4. 他社 事故・災害事例から : 計量タンク内を拭き取っていて中毒  
～底部に有機溶剤の高濃度蒸気が滞留～

(1)災害のあらまし

- ・化学製品の調合室で、薬品の混合・計量タンク(直径・深さ90cm)内部の汚れを清掃するため、シンナー(有機溶剤)を浸したウエスで拭き取りを行っていた作業者が、計量タンクに顔を突っ込んだ状態で失神し、発見が遅れたため重度の有機溶剤中毒となって救急車で病院に収容されました。

(2)災害の主な原因

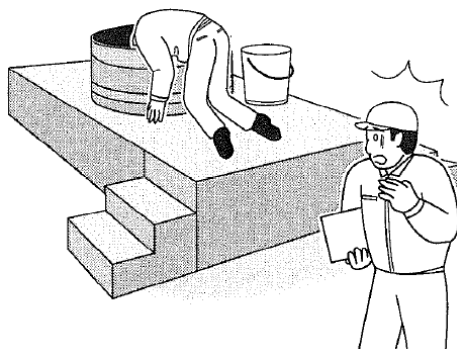
- ①計量タンクの拭き取り清掃のシンナーの蒸気が、タンクの底に高濃度で滞留していたこと。
- ②被災者は直結式小型防毒マスクを使用していたが、長期間の使用でろ過材が破過して効力がなかったこと。
- ③清掃の作業を依頼した監督者の指示が不適切だったこと、また、有機溶剤作業主任者に指揮させる等の管理が不適だったこと、など。

(3)同種災害の防止対策 例

- ①タンク内部の有機溶剤蒸気を十分置換・換気し、測定等で濃度を確認し、換気しながら安全な状態で清掃作業を行う。
- ②有害物の濃度や作業に適応した適正な呼吸用保護具を使用する。
- ③当該作業は有機溶剤作業主任者の指揮・監督の下で行う。
- ④有機溶剤の取り扱い作業者は、法令で定められた所定の安全衛生教育を受講するなどして安全作業を実施する、など。

(4)環境安全部から

- ・有機溶剤作業主任者は防毒マスク等の保護具の使用状況(ろ過材の有効時間の管理等)をしっかりと監視して下さい。



5. ヒヤリハット事例

- ・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	午後2時頃
どこで	第三工場
何をしている時に	設備の六角ボルトをモンキースパナで外そうとしたとき
どうなった	きついので力(チカラ)を入れた瞬間すべり、前側に転倒しそうになりヒヤットした

以上